



ふれあい運動会、応援ありがとうございました



新にい潮しお

校訓

郷土を愛し
明るく素直で
たくましく

文責：校長 川内康範

8日(日)は59名の子どもたちが走ったり演技をしたり、できることを精一杯に頑張っていました。そして、すばらしい「ふれあい運動会」を創り上げてくれました。ご家族の皆様も終日の応援本当にありがとうございました。

さて、次なる目標は、28日土・29日日の平戸市中総体です。選手の皆さんは体調を崩さないように気をつけながら、当日は悔いの残らない試合をしてほしいと思います。

日曜日朝、錦織選手の試合(イタリア国際テニス準決勝)が放送されていました。最後の最後まで勝敗がわからない、手に汗握る接戦でした。後日の長崎新聞には次のように書かれていました。

3時間を超えたフルセットの激闘は紙一重の勝負だった。錦織は互角のラリーで王者シヨコビッチを追い詰めたが、最後はタイプブレークで「勝ちを意識して硬くなった。」とダブルフォールトなどミスが響いて力尽きた。

平常心が大切だとはよく言いますが、錦織選手ほどのトッププレイヤーでも、「勝ちを意識して硬くなる」ことがあるんですね。

親子で読書の世界を広げよう

今週は「親子10分間読書」の週です

小学校でも取り組まれていたように、本校でも「親子10分間読書」を進めています。10分間とはいえ、お忙しい中いっしょに本を読むのは大変だと思いますが、得るものが多いと思います。

私は、最近学校の図書室から『泣き虫ハアちゃん』河合隼雄 という本を借りて読みました。本の紹介文には、「ほんまに悲しいときは、男の子も、泣いてもええんよ」。城山家の、男の子ばかり

六人兄弟の五番目のハアちゃん。感受性が豊かなあまり、幼稚園の先生が辞めると聞いては泣き、童謡に出てくるどんぐりの行方を案じては泣いてしまう。家族に見守られ、友人たちと野山を駆け巡って、成長してゆく過程をみずみずしく描く。」とあります。読んでみると、「自分が小さい頃も似たような感じ方をしていたなあ」と思い出す場面がありました。

しかし、これまでのハアちゃんと少し変わったところが出てきた。それまでは、親や兄たちの言うことは、ほとんど絶対に正しいという感じだったのが、案外そうではない、と反撥したくなるようなことが生じてきた。中略 好きでないことは、ちよっとごまかしておいたり、マト兄ちゃんに言わせると、少し「横着もん」みたいなところが出てきたのだ。

言ってみれば、元気にしてはいるのだが、まだほんとうに普通ではないというか、どこか、ピツタリとはまり切らない感じがある。「僕という人間が、この世に一人いる」という孤独からは出てきたものの、「僕は僕だ」と逆に威張りたような気持ちになって、周りとかくはぐくなるのだ。

今の中学生の心の中にもひよっとしたら、同じような気持ちがあるかもしれませんね。

読書をしていて、「こんな気持ちわかるわかる」という内容に出会ったときは、とてもうれしいものです。これも、読書の楽しみの一つだと思います。

